普及現地情報

発信年月日：令和３年(2021 年)10 月 20 日
所　属　名：大津・南部農産普及課
番　　号：A21009
部 門 分 類：430
発 信 者 名：宇野、布施

野洲市吉川野菜生産出荷組合のシュンギクの出荷形態を変える

吉川野菜生産出荷組合（35 名、以下組合）は、共販でシュンギクを大阪、京都、大津、長浜の 4 つの卸売市場へ出荷されています。最盛期の 1990 年に 2 億 6 千万円あった販売金額が、2,300 万円にまで激減しています。これに歯止めをかけるべく、㈱長浜合同青果（以下、長浜市場）と当課が連携し、出荷体系の大幅な変更を組合に提案、それに向けての取り組みが始まっています。

昨年 11 月、上記 4 市場との合同出荷推進会議の席で、長浜市場から、食品ロスを防ぎ、消費者ニーズに合致した「食べきりサイズ（1 パック 75ｇ詰め）」（左下：写真）でシュンギクを県下の量販店へ販売していることが紹介されました。

早速、担当者を訪問し聞き取ったところ、ある産地から 150ｇで出荷されてくるものを、長浜市場のパート社員が 75ｇに詰め替えているとの説明を受けました。

シュンギクは軟弱野菜の中でも需要の多い品目とは言い難く、市場は吉川のシュンギクを特別扱いはしていない、他産地との差別化を図りオンリーワンの産地に変革しなければ衰退する一方だと考え、組合の役員会で 75ｇ規格での出荷に取り組めないかと提案しました。

役員から、現状は 150ｇで袋詰めしているため 75ｇだと手間が倍かかる、栽培している品種を変える必要がある、取り組んだとしても有利販売される保証がない、長浜市場だけのために出荷形態を変えると共販体制に悪影響を及ぼす、など消極的な意見がその場を占めました。

これを受け、組合長、副組合長、ＪＡと協議を重ねた結果、まず組合長が試作で取り組むこととなりました。8 月 22 日に播種が終わり、10 月 14 日に長浜市場の担当者と出荷に向けての最終調整（右下：写真）が終わりました。

長浜市場からの情報提供に当課が反応し、市場担当者と意見交換を行い、役員会で提案。ＪＡも含め消極的な意見が多い中で、シュンギクの生産回復には改革が必要であることを粘り強く提案し続けた結果、ようやく現場が動き始めました。

長浜市場が手掛ける食べきりサイズ

組合長（右から 2 人目）、長浜市場との最終打ち合わせ